

「弁護士になった極道の妻」

昨年（平成12年）2月に出版され、たちまち多くの人々の感動を呼んだ『だからあなたも生きぬいて』という本があります。

著者は大平光代さんという方でご自身の半生を綴った自叙伝です。

彼女は中学一年の時、同級生たちの陰湿ないじめに遭い、自殺を図ります。

幸い一命をとり止め、再び学校に戻るのですが、同級生たちの冷たい視線と心ない言葉は彼女の心をさらに傷つけます。

とうとう彼女は坂道を転げ落ちるように非行に走り、何と16才の時「極道の妻」になり、背中に刺青を入れるまでに身を落とすのです。

しかし、そんな彼女の人生に一大転機が訪れます。それは父の友人であり、いずれ養父となる大平浩三郎さんとの出会いです。

大平さんもまた温かい家庭の愛情を知らずに育った不良少年でしたが、自力で起こした事業が成功したのをきっかけに立ち直り、以来家庭に恵まれない少年たちを自分の会社に雇い入れたり、資格をとるための学費の面倒を見たりと、非行に走る子供たちに、深い愛情と理解を持った方なのです。

「いつまでこんな生活をするのや。今からでも遅くないから、もう一度、人生やり直してみ」と、懸命に説得を続ける大平さんの温かい人柄に打たれた彼女は次第に心を開き「もう一度人を信じてみよう。もう一度人生をやり直してみよう」と固い決心をするのです。

それからの彼女は中卒という学歴を乗り越え、すさまじい猛勉強の末、「宅建」「司法書士」と次々と合格し、29歳でついに「司法試験」に一発で合格を果たすのです。

現在、彼女は36才になり、大阪で非行少年の更生に努める弁護士として多忙な毎日を送っています。

彼女が人生をやり直そうと決意した時、大平さんは尾関宗園師（おげき そうえん京都大仙院住職）の次のような言葉を送っています。

「今こそ出発点」

人生とは毎日が訓練である

私自身の訓練の場である

失敗もできる訓練の場である

生きているを喜ぶ訓練の場である

今この幸せを喜ぶことなく

いつどこで幸せになれるか

この喜びをもとに全力で進めよう

私自身の将来は今この瞬間にある

今ここで頑張らずにいつ頑張る

彼女はこの言葉を、時には壁に張り、時には手にとって何度も何度も読み返したそうです。この言葉が送られて9年、ついに彼女は弁護士になるのです。

「人は人によって育てられる」と言います。

大平さんは彼女にとって養父であり、人生の大先輩であり、また心の師でもあります。まさに仏さまの名代としてこの世に現われ出でた「善知識」であります。

彼女は最後にこう記しています。

「あきらめたら、あかん！」

是非、一読をお勧めします。

平成13年12月 「光明寺だより19号」より